

## 受講者の声

### 教育学部

後継者不足や自給率低下などの問題もあるが、それ以上に今現在行われている農業の多種多様な取り組みにすごく興味をひかれた。

### 経済学部

毎回様々なゲスト講師にお越しいただき、主に農業現場の生の意見を聞くことができた。15回すべてに興味を持ちながら出席することができた。

### システム工学部

これから専門的な知識を学び、その知識を活かし、将来は、日本の農業を救っていきけるようなモノづくりをしていきたいと思う。

### 観光学部

これまで農業には興味がなかったが、授業で毎週学ぶことで農業について考えることが増えた。農業に興味を持つきっかけになったと思う。

### 社会人

食と農について、改めて考え直すよい機会となった。また、現役の学生さんの考えを聞く機会があれば、さらによいと思う。

受講者の声は、

リアクションペーパー

より抜粋しています。

和歌山大学 令和元年度 後期学部開放授業  
JAわかやま 寄付講義\*

## 社会人受講生募集

# 食と農のこれからを考える



日本の豊かな食を支える農業・農村は危機的状況にあります。

一方で、近年では全国の農村では活性化に向けて

様々な取り組みが見られます。

国も「地方創生」を合言葉として、農業・農村を応援しています。

本講義では、各分野の専門家をお招きし、日本の食料や農業の現状と課題についてお話しいただきます。これからの食と農について、

皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

\*JAわかやまと和歌山大学(観光学部)は2015年から3年間「新たな市民農園の展開による都市農業再生」をテーマに共同研究に取り組み、農業体験農園の開設などの成果をあげています。そして、2018年度からは共同研究の継続とともに、次世代の育成や食農教育を通じた農業理解の醸成を同的とした寄付講義を開講することとなりました。

## 和歌山大学へのアクセス

〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

※いずれも「和歌山大学」バス停車

### ●南海和歌山大学前駅から

徒歩で約20分、和歌山バス(和歌山大学前駅東口バス停 和歌山大学行き)で約4分

### ●南海和歌山市駅から

和歌山バス(6番乗り場 和歌山大学行き)で約20分

### ●JR和歌山駅から

和歌山バス(4番乗り場 和歌山大学行き)で約30分

※「大学口」「大学前」各停留所は和歌山大学の最寄停留所ではありませんのでご注意ください。



## お申し込みについて

**対象** 一般社会人ほか

**場所** 和歌山大学栄谷キャンパス(東1号館G101室)

**開講時期** 後期火曜日5時限目(16:30-18:00)

**募集人数** 50名程度

### 聴講資格

18歳以上(高校生は除く)

### 出願期間

令和元年9月5日(木)～9月12日(木)

### 出願方法

「受講者登録申請書」と「聴講申請書」を和歌山大学食農総合研究所宛にお送りください。その際、封筒の表に「学部開放授業書類在中」と朱書きし、「特定記録」で送付して下さい。

### 出願先

和歌山大学食農総合研究所 〒640-8510 和歌山市栄谷930番地

### 費用

登録料 7,000円(1回の登録で4年間、本学学部開放授業の聴講申請が可能です)  
聴講料 10,000円

※申請書類が届き次第、振込用紙を郵送します。

所定の用紙を使って聴講料及び登録料を令和元年9月17日(火)までに銀行振込して下さい。手数料は受講者負担となります。

期限までに振り込まれない場合は、登録申請、聴講申請は無効となります。



【300人を超える受講者】



【最終回、若手農業者らによるディベート】

## 授業のスケジュール

- 第1回 (10/01) 現代の食料・農業 (岸上光克 和歌山大学)
- 第2回 (10/08) 和歌山市の農業とJAの役割 (JAわかやま前年度受講生有志)
- 第3回 (10/15) フードシステムと6次産業化 (内藤重之 琉球大学)
- 第4回 (10/29) 日本版ガストロノミーと食文化 (尾藤環 辻調理師専門学校)
- 第5回 (11/12) 地域資源活用とコミュニティビジネス (木村則夫 秋津野ガルテン)
- 第6回 (11/19) 地域における食育の推進 (三國和美 紀の川市食育推進会議)
- 第7回 (11/26) 「田園回帰」時代のライフスタイル (辻和良 和歌山大学)
- 第8回 (12/03) 農業・農村とジェンダー (植田淳子 和歌山大学)
- 第9回 (12/10) 農業・農村で活躍する女性 (尾原浩子 日本農業新聞)
- 第10回 (12/17) 都市農村交流の新段階 (藤田武弘 和歌山大学)
- 第11回 (12/24) 協同組合の現代的価値 (岸上光克 和歌山大学)
- 第12回 (01/07) 農村における空き家活用 (佐久間康富 和歌山大学)
- 第13回 (01/14) 森林サービス産業の創出 (木俣知大 国土緑化推進機構)
- 第14回 (01/21) 農業とIT活用 (佐々木茂明 株式会社citrus)
- 第15回 (01/28) 若手農業者と語る「食と農のこれから」 (大浦由美 和歌山大学 ほか)

## 問い合わせ先

### 和歌山大学食農総合研究所

TEL 073-457-7126

E-mail food-agri@ml.wakayama-u.ac.jp

URL <https://www.wakayama-u.ac.jp/food-agri/>

### \*\*\*和歌山大学食農総合研究所\*\*\*

コンセプトは「テロワールを活かした農の新たな価値創造」。和歌山における地方創生の鍵は農山漁村の地域再生、それを支える農林漁業の再生にあると考え、食と農、農山漁村の課題に応える本学の窓口として、平成28年度に発足しました。

### \*\*\*テロワールとは\*\*\*

ワインのソムリエが使う言葉で、ブドウの生育環境としての立地を表していますが、現在では風土、自然環境とそこで育まれた特徴的な産業、文化、歴史、そして暮らしが渾然となったいわば、「地域らしさ」を表現する言葉として使われています。